

仏生山探検隊～仏生山の魅力再発見の巻～

代表者 小松 真子（経済学部経済学科2年）

1. 目的と概要

この事業は、私たち大学生がきっかけとなり、仏生山地区の子どもや大人、他地域の方々が共に交流する場を作ることで、仏生山の方には仏生山の良さを再認識し、世代を超えた交流のきっかけにさせていただくこと、また他地域の方に向けては、仏生山の魅力を知る機会を創出することを目的として行った。

現在、仏生山地区で活動をするなかで、地域住民との共通の認識として、地域における世代間での交流が少ないという課題がある。そこで今年度の活動では、写真を使ったロゲイニングイベントを開催することで、仏生山のまちを歩いてもらうことにより、楽しみながら若者から大人まで世代を超えた交流の機会を創出することを目的に活動した。また、仏生山に住む人と外部から仏生山に来た人が関わりを持つことで、地域の良さを再認識する機会を創出することを目的に活動した。このイベントを通して、仏生山の魅力をこれまで以上に多くの方に伝えることできたと考える。

2. 実施期間(実施日)

令和4年8月1日から 令和5年1月22日まで
(実施日：第1回12月11日、第2回1月22日)

3. 成果の内容及びその分析・評価等

この事業で得られた成果は主に3つある。1つ目の成果は、地域や世代を超えた交流の場の創出ができたことである。参加者について、仏生山にお住まいの方の割合が高かったものの、その他の地域の方々にもご参加いただき、また10歳代から70歳代以上と幅広い世代のみなさんにご参加いただくことができた。2つ目の成果は、ロゲイニング実施後に参加者から、よい意見を沢山いただくこと



↑ロゲイニングの様子

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業によって、地域の方々に香川大学の地域活動の取り組みを伝えることができたと考える。チェックポイントの許可取りでは、私たちの活動をはじめで知る方も多く、ロゲイニング当日では、仏生山以外の地域の方とも交流をすることができた。このような場面を通して、私たちのプロジェクトのことや、それを支える香川大学が「地域に根ざした学生中心の大学」であることについて、より多くの人に理解してもらうことができた。

地域社会に与えた影響としては、仏生山の方々の地域への愛着を深めることができたこと、他地域の方々が仏生山の魅力を知ったことで、今後仏生山に足を運ぶ機会の増加につなげることができたことが挙げられる。また、地域や世代を超えた交流の場の創出により、新しい出会いが生まれ、コミュニケーションの場となった。さらには、チェックポイントの1つとなっている飲食店での飲食について、通常よりも高い点数を得られるなどの工夫を行ったため、仏生山の経済効果にも少し貢献できたのではないかと考える。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この事業を通して、地域の方々とのかかわり方について改めて考えるきっかけになった。ロゲイニングで使用するマップやチェックポイント表の依頼、チェックポイントの許可取りでは、直接伺い、企画説明を行うことのほか、メールや電話を使用することもあった。このような場面での地域の方々とのかかわりにおいて、私たちが仏生山で活動を行っていることを知らない方や、香川大学生が活動を行っていることは知っているが、実際にどのような活動を行っているの

かについては理解できていない方など、私たちの活動に対する認知度が不十分であることが分かった。従って、私たちの活動がより多くの地域の方々にとって身近なもの、応援しようと思っただけのようなものにするために、これまで私たちの活動を支えてくださった方をはじめとして、このかわりを広げていくことの大切さを知ることができ、今後の活動の在り方について考えるきっかけになった。また、許可取りを通して、メールや電話の基本的なマナーを学ぶと同時に、相手に対して自分の考えていることや、やりたいことを端的に伝える力を身につけることができた。

6. 反省点・今後の展望(計画)・感想等

<反省点>

反省点は主に2つある。1つ目は、チェックポイントの選定や各スポットの写真撮影に当初の想定より時間がかかった点である。これにより許可取りやマップ作成にも大幅な遅れが生じ、事務の方々をはじめ様々な方にご迷惑をおかけしてしまった。2つ目は、参加者の募集やイベント広報が十分に行えていなかった点である。今後はこれらの反省を活かし、SNSなどを通じたより積極的な情報発信を行うことや計画を詳細に立てることを徹底すると同時に、仏生山地区の方々とも十分な打ち合わせを行い、地域の方との連携を図っていきたい。また、メンバー間で情報共有を徹底し、役割分担を適切に行うようにしたい。

<感想>

このプロジェクト事業を通して、計画の立て方や情報共有、地域の方との連携といった課題を認識した。反省点は大きいものの、参加者からはよい評価をいただくことができ、仏生山の魅力を地域住民だけではなく、他地域の方にも伝えることができ、自分たちの活動について自信を持つことにつながった。また、許可取りや仏生山散策を通して、これまでの活動では関わりのなかった地域の方とも会話をすることができ、私たちの活動についてより多くの人に知ってもらえる機会となったと考える。今後は今回学んだ反省点を活かしつつ、地域の方々ともより広く深い関わりを持った活動を行っていきけるようにしたい。

7. 実施メンバー

代表者	小松 真子 (経済学部 2年)		
構成員	北川 菜々子 (経済学部 4年)	井上 雅美 (経済学部 4年)	
	日野 風花 (経済学部 4年)	藤澤 希恵 (経済学部 4年)	
	鴨井 悠里 (創造工学部 4年)	西口 菜々子 (創造工学部 4年)	

福井 百花 (創造工学部 4 年)	犬田 朋花 (経済学部 3 年)
奥野 唯織 (創造工学部 3 年)	難波 穂乃花 (経済学部 3 年)
門脇 優夢 (経済学部 2 年)	小林 龍生 (経済学部 2 年)
伊勢田 乃愛 (創造工学部 2 年)	三井 美乃 (創造工学部 1 年)
鈴木 希良々 (教育学部 1 年)	

8. 執行経費内訳書

配分予算額		180,216 円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
花王ビオレ U 手指の消毒液 (400ml)	3	587	1,760	
電子温度計 非接触型 GP-300	3	1,628	4,884	
合成紙リストバンド (無地 イエロー)	100	32	3,200	
印刷/チェックポイント表	30	30	900	
レギュラーのぼり 60cm*180cm (3m スタンドポール付)	2	3,860	7,720	
チラシ(2,000 部) (B4 変型 216*280 コート 90kg 4 色カラー)	1		11,220	
合成紙リストバンド (データ入稿 イエロー)	100	32	3,200	
地図パンフレットデザイン費 (印刷含む) A4	100		54,765	
交通費				
仏生山—栗林公園 大人(往復)	19	500	9,500	
仏生山—瓦町・高松築港 大人(往復)	28	660	18,480	
仏生山—瓦町 大人(片道)	1	330	330	
合 計			115,959	

